



## 大分県佐賀関町における春期の猛禽類の渡り

渡会満寿男<sup>1</sup>・矢野真紀夫<sup>2</sup>

1. 〒870-0156 大分県大分市高城新町7-14 堀コーポ203

2. 希少生物研究会. 〒879-7141 大分県大野郡三重町大字秋葉640-3

### はじめに

猛禽類の渡りは、日本野鳥の会の呼びかけで1986年よりはじめられたサシバ *Butastur indicus* の渡り一斉調査(武田 1989)がきっかけになって、全国の主要な渡りの経路が明らかになってきた。九州内においても秋期の渡りについては、鹿児島県佐多岬(吉井・叶内 1979)、大分県南部および宮崎県北部(日本野鳥の会愛媛県支部ほか 1989)、五島列島福江島(井上 1998a)での調査が行なわれており、それ以外にも日本野鳥の会各県支部報での報告がある。また、春期の渡りに関しては、対馬を南下するハチクマ *Fernis apivorus* とサシバ(井上 1998b)、九州北西部を西に渡るハイタカ *Accipiter nisus* と東、南へ渡るサシバ、ハチクマ(伊関 2004, 井上 1997)が観察されている。しかし、春の渡りについての調査は少なく、九州東部での継続的な調査は、大分県八面山のハチクマの渡りの調査(富高・山本 2002)以外、筆者らの知る限り行なわれておらず、ハチクマ以外の猛禽類の渡りに関しては、単発的な観察記録を除いてほとんど知られていない。

2003年の春、大分県佐賀関町関崎にて、家長栄之助氏、加藤吉勝氏が行なった7日間の調査で、ノスリ *Buteo buteo* が476羽、ハイタカが335羽、オオタカ *A. gentiles* が20羽の渡りが観察された(家長、加藤 私信)。筆者らはこの記録に興味を持ち、2004年の春期に渡りについての継続調査を行ない、ハイタカ、ノスリ、ツミ *A. gularis* をはじめ、計11種の猛禽類、3,200羽以上の渡りを観察したので報告する。

### 調査地および調査方法

大分県の東部に位置する佐賀関町の東、関崎展望台よりやや西側の稜線部近くの駐車場(33.15° N, 131.53° E)にて調査を行なった(図 1)。調査地点の駐車場からは東～南西の展

2006年1月24日 受理

キーワード: 春の渡り, 猛禽類, 大分県佐賀関町関崎

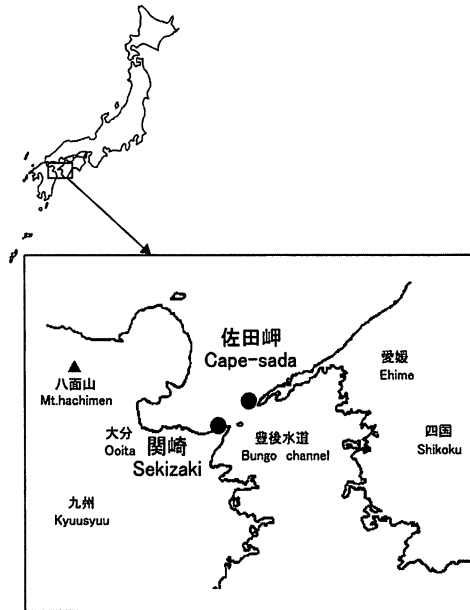


図 1. 調査地.  
Fig. 1. Study site.

望が良く、東は愛媛県三崎町佐多岬が、南は大分県津久見市楠屋鼻、沖無垢島等が展望できる。

調査は2004年 3月13日から 4月11日までのあいだに、朝から雨が降っていた 3月21日と 3月30日を除く、27日間行なった。調査は 8時から15時を目安に行なったが、猛禽類の出現状況、天候の変化などにより時間を変更した(付表 1)。

調査は、調査地点の周辺(半径約1.5km)を通過する個体を観察することにより行なった。個体の発見は肉眼および 8倍の双眼鏡で行ない、種の識別は 8倍の双眼鏡および32倍の望遠鏡をもちいて行なった。

### 結果および考察

2004年 3月14日から 4月11日までの調査期間内に、関崎で記録したタカ目はタカ科10種、ハヤブサ科 2種だった。このうち東への渡りを確認したのはミサゴ *Pandion haliaetus*、ハチクマ、オオタカ、ツミ、ハイタカ、サシバ、ノスリ、ハイイロチュウヒ *Circus cyaneus*、チュウヒ *C. spilonotus*、ハヤブサ *Falco peregrinus* の10種で、西への渡りを確認したのはオオタカ、ツミ、ハイタカ、サシバ、チョウゲンボウ *F. tinnunculus* の 5種だった。トビ *Milvus migrans* については渡りなのか不明であった。

以下に多数の渡りを確認した代表的な 5種について種別に報告する。

## 1. ハイタカ

2004年 3月14日から 4月11日までの調査期間を通じて、西への渡る個体を1655羽確認した。西向きの渡りが多かったのは3月14日から3月18日までの5日間と、3月26日から3月30日までの5日間で、それぞれ総数の36%と24%が記録された(図2)。調査開始日の3月14日にすでに、156羽の渡りが観察されたことから、調査開始以前より多数渡っていることが推測された。愛媛県佐田岬でのハイタカ属の渡りは3月23日から4月3日にかけて多く記録され(井上1993)、福岡県立石山での渡りのピークは3月下旬から4月上旬(伊関2004)で、3月中旬にも多数の渡りが観察された本調査地の記録と異なった。この違いは、年による渡り時期の違いの可能性もあるが、本調査と同じ2004年の春期に福岡県立石山を通過したハイタカの総数は、本調査地と大きく違わなかったものの渡りの時期は異なっており、4月上旬にピークがあった(伊関 私信)。したがって、本調査地を通過する群れは福岡県立石山のものと異なる渡り経路上にある可能性が高いと考えられる。

出現数の多かった4日間の観察では、11時台から12時台にピークがみられ(図3)、10時台から15時台に多く渡る傾向があり、愛媛県佐田岬での渡りの大半は、10時から15時までのあいだに集中していたこと(井上1993)と一致した。

東向きの渡りは3月28日から4月8日までのあいだに9羽観察した。福岡県立石山でも東寄りの方向への移動は、渡りかどうか判断できない少数の個体のみで(伊関2004)、愛媛県佐田岬でもわずかだったことから(井上1993)、九州において春期に東へ渡るハイタカは少数と思

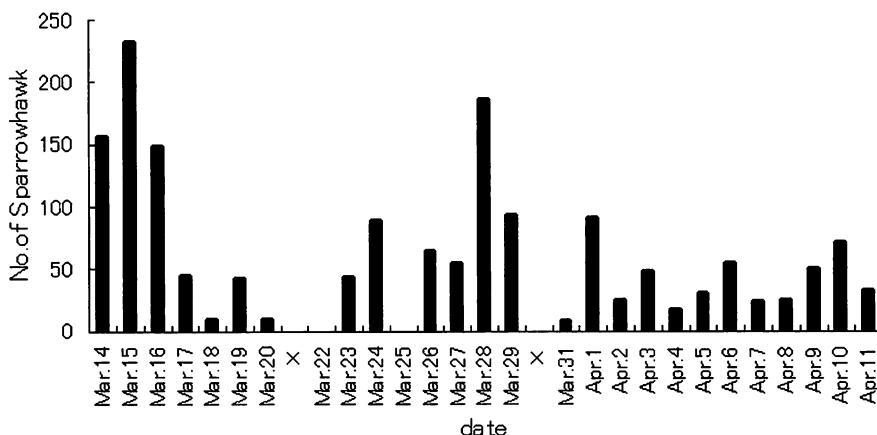


図2. 大分県関崎における西方向へ渡るハイタカの個体数の時期的な変化。

Fig. 2. Daily changes of number of Sparrowhawks migrating to the west from Sekizaki, Oita Prefecture, Kyushu.

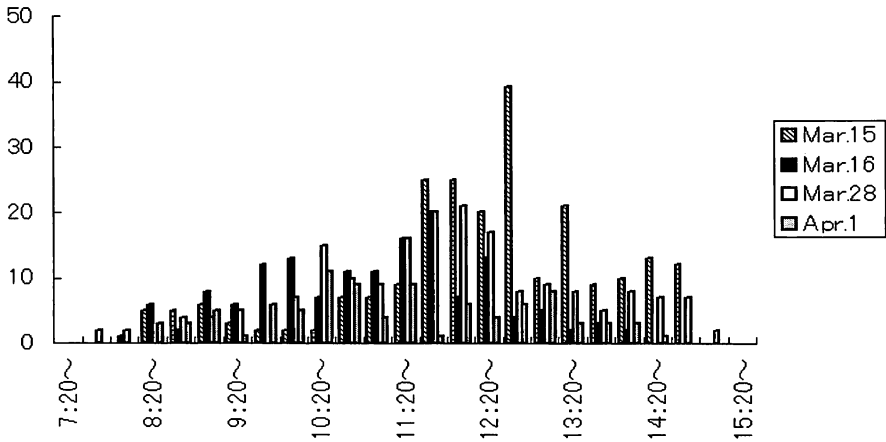


図 3. 大分県関崎における西方向へ渡るハイタカの個体数の時刻別変化。

Fig. 3. Hourly changes of number of Sparrowhawks migrating to the west from Sekizaki, Oita Prefecture, Kyushu.

われる。

井上(1993)や井関(2004)は九州でハイタカが繁殖していないことから、西へ渡るハイタカは大陸で繁殖している個体の渡りと考えている。本調査地の渡りはこれらの場所とは異なる渡り経路と考えられたが、同様の理由から、大陸で繁殖している個体と考えられる。

## 2. ノスリ

3月14日から4月11日までの調査期間を通じ、東へ1218羽の渡りを観察した(図4)。3月中には、渡り個体数が1日あたり100羽を越える日が5日間あったが、4月に入ると30羽を越えた日は4月1日のみであった。3月中旬から3月下旬に観察総数の83%が渡り、ピークは3月以前にあることがわかった。しかし、ハイタカと同様に調査開始日の3月14日にはすでに155羽の渡りが観察されたことから、調査開始以前より多数渡っていることが推測される。徳島県鳴門山での観察では3月上旬から3月中旬にピークがあり、2002年に1319羽、2003年に1512羽で東への渡りが記録されている(日本野鳥の会徳島県支部2003)。

出現数の多かった4日間の観察では、9時台から10時台にピークがみられ(図5)、8時台から10時台に多く渡る傾向があった。

これまで、徳島県鳴門山以西でのノスリの渡りの観察記録は、秋期に鹿児島県佐多岬から南

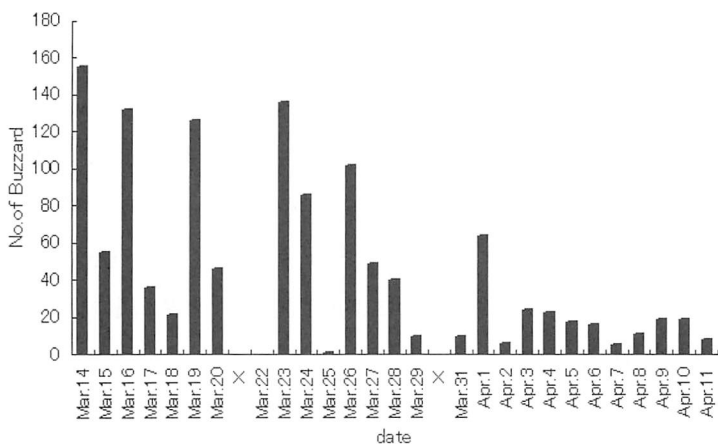


図 4. 大分県関崎における東方向へ渡るノスリの個体数の時期的な変化.

Fig. 4. Daily changes of number of Common Buzzards migrating to the east from Sekizaki, Oita Prefecture, Kyushu.

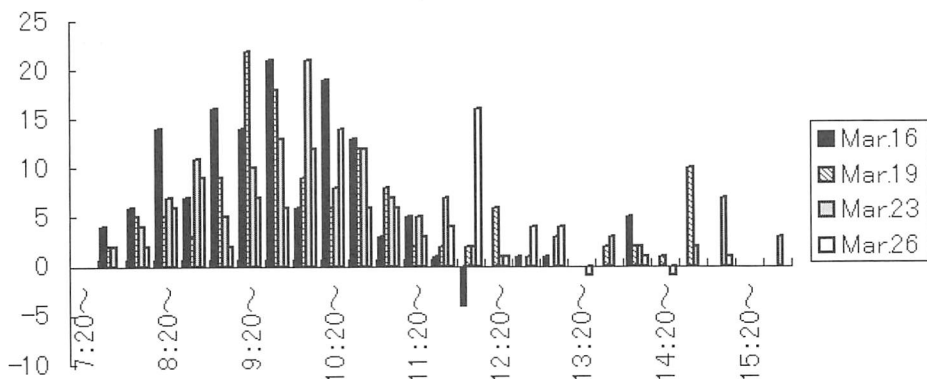


図 5. 大分県関崎における東方向へ渡るノスリの個体数の時刻別変化.

Fig. 5. Hourly changes of number of Common Buzzards migrating to the east from Sekizaki, Oita Prefecture, Kyushu.

へ渡る(森岡ほか 1995)などごくわずかで、詳細は不明である。今回の調査において、九州内でもノスリが多数渡っていることが判明した。大多数が九州内で越冬しているものなのか、あるいは沖縄や大陸で越冬していた個体が渡っているのかについては今後の調査が必要である。

### 3. ツミ

3月16日から4月11日までのあいだに、東へ210羽の渡りを確認した(図6)。渡りが最も

多く記録されたのは4月1日で、4月上旬に全体の62%が記録された。渡りのピークが調査期間の最後にあったので、調査終了後の4月中旬以降にもツミが渡っていた可能性も考えられるが、ツミにおける春期の渡りに関しての記録は少ないため、確実なことは分からない。また、西へ渡る2羽も観察されたが、西へ向かう個体はきわめて少数と考えられる。愛媛県佐田岬での春期の調査では、東へ渡りをしたハイタカ属が合計93羽記録されているが、東への渡りは調査を終了した4月13日も多いままで、その後も多くの個体が渡った可能性がある(井上1993)。4月に多いという時期的な一致を考えると、この東に渡ったハイタカ属の猛禽にツミが数多く含まれていたと考えられる。

出現数の多かった5日間の観察では9時台から10時台にピークがみられ、9時台から11時台に多く渡る傾向があった(図7)。秋期の観察であるが、長野県白樺峠において、渡りが長時間続きピークがはっきりしない(信州ワシタカ類渡り調査研究グループ2000)のとは異なった。

筆者らは、大分県南部において2月下旬にも少数ながら北へ渡るツミを観察していることから、ツミの春期の渡りは2月下旬より始まり長期間に渡ると考えられる。体の小さな本種の渡りが見落とされている可能性もあり、それが春期における本種の渡りが解明されていない原因と思われる。

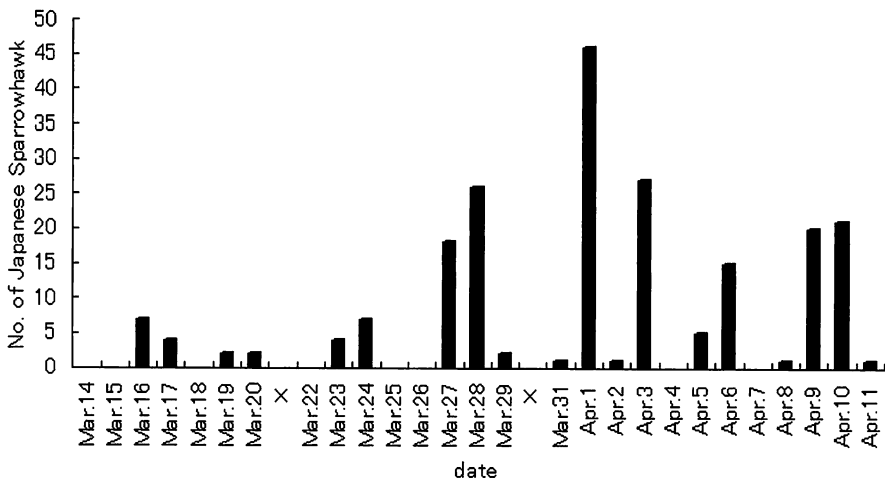


図 6. 大分県関崎における東方向へ渡るツミの個体数の時期的な変化。

Fig. 6. Daily changes of number of Japanese Lesser Sparrowhawks migrating to the east from Sekizaki, Oita Prefecture.

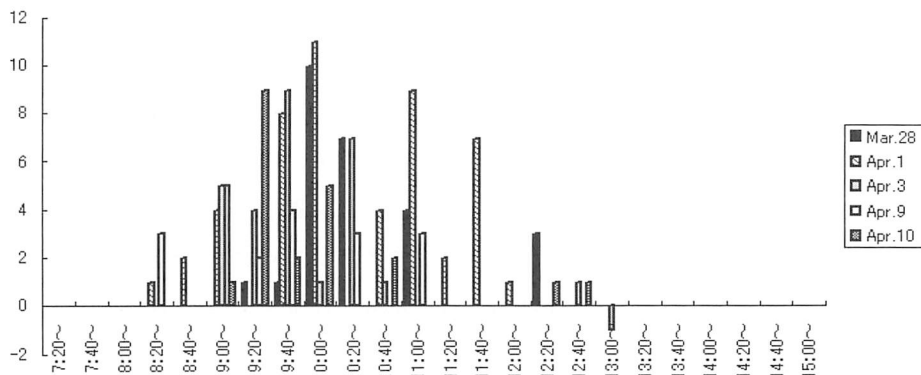


図 7. 大分県関崎における東方方向へ渡るツミの個体数の時刻別変化。

Fig. 7. Hourly changes of number of Japanese Lesser Sparrowhawks migrating to the east from Sekizaki, Oita Prefecture.

#### 4. サシバ

3月24日から4月11日までのあいだに、東へ88羽の渡りを観察した(図8)。高知県高知市でのピークは3月下旬から4月上旬で、春の渡りの期間中に6000~8000羽の個体が渡る(黒岩ほか1998)。同じ季節に調査を行なったにもかかわらず、サシバがあまり記録されなかったことから、本調査地はサシバの春期の主要な渡り経路からは外れていると考えられる。また、西へ8羽の渡りを観察したが、観察地点から南の海上より飛来し半島部にて向きを西に変えたものであり、東側対岸の愛媛県佐田岬よりの飛来ではないと思われる。

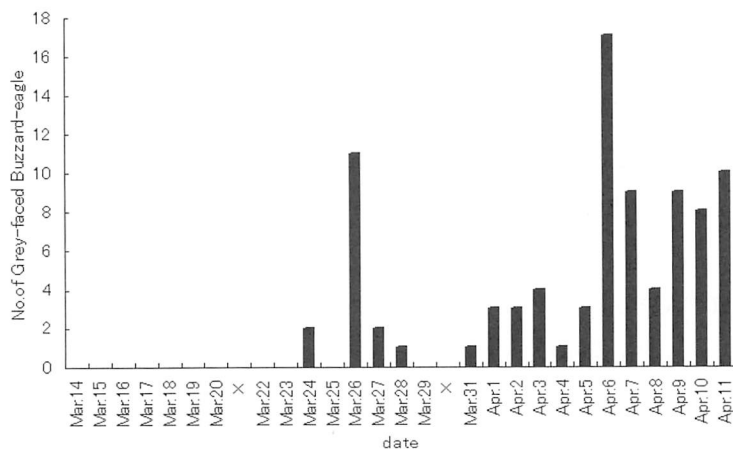


図 8. 大分県関崎における東方方向へ渡るサシバの個体数の時期的な変化。

Fig. 8. Daily changes of number of Gray-faced Buzzards migrating to the east from Sekizaki, Oita Prefecture.

## 5. オオタカ

3月24日から4月10日までのあいだに東へ71羽の渡りを観察した(図9)。渡り数は3月下旬に多く、48%が確認された。青森県竜飛岬では、ピークは3月下旬と4月下旬の2回あると考えられているものの(久野 2000)、本調査地の渡り個体数の季節推移はあまり明確でなく、調査終了後にも渡っている可能性があり、オオタカの渡りを明らかにするためには継続して調査を実施する必要がある。また、西へ4羽の渡りを観察した。本調査地以西の行方は不明であるが、九州内での繁殖記録はきわめて少なく、大陸まで移動していることが考えられ、亜種チョウセンオオタカ *A. g. schvedowi* または亜種 *A. g. buteoides* の可能性も考えられる。

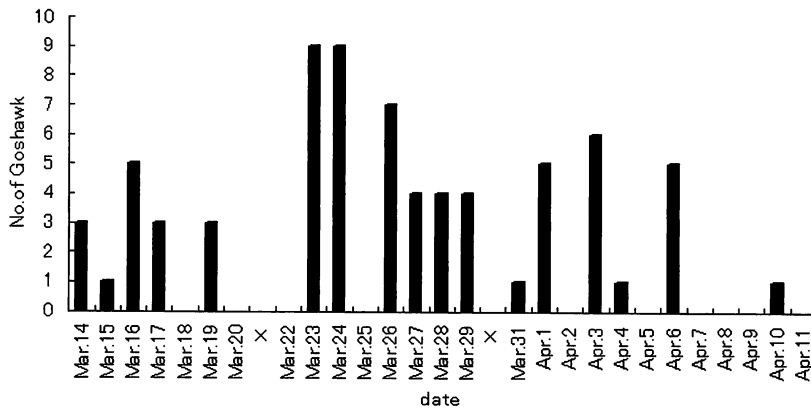


図9. 大分県関崎における東方向へ渡るオオタカの個体数の時期的な変化。

Fig. 9. Daily changes of number of Goshawks migrating to the east from Sekizaki, Oita Prefecture.

今回の調査から、大分県佐賀関町関崎は春期におけるハイタカ、ノスリ、ツミの主要な渡り経路になっていると考えられた。渡り経路の存在が判明したことで、今後、各地における渡り調査がさかんに行なわれることを期待したい。ハチクマについては4月10日に雄成鳥1羽が東へ渡ったことを確認したのみだが、大分県八面山でのハチクマの渡りのピークは4月下旬から6月上旬(富高・山本 2002)であり、今回の調査期間からは外れているので、本調査地がハチクマの渡り経路になっているかどうかを明らかにするには4月中旬以降に調査を継続する必要がある。



## 謝 辞

本稿をまとめるにあたり、伊関文隆氏には文献、資料を多数提供していただいた。また、増田智久氏には論文の書き方や内容について助言をいただいた。筆者らのわがままに付き合っ、快く調査のお手伝いをしていただいた家長栄之助、首藤直美、加藤吉勝、衛藤豊、田中弘、勝野史雄の各氏をはじめ、タカの渡りの魅力を教えていただいた、伊良湖岬の渡り鳥を記録する会、地元関崎の方々に厚く御礼申しあげる。

## 要 約

1986年以来、猛禽類について全国の主要な渡りの経路が明らかになってきた。九州内においては秋期の渡りについて調査が行なわれているが、春期の渡りに関しての調査は少なく、九州東部での継続的な調査では、大分県八面山のハチクマの渡りの調査以外は知られていない。そこで、大分県佐賀関町関崎で猛禽類の渡りについて、2004年 3月13日から 4月11日までのうち27日間、調査を行なった。ハイタカはおもに西方向へ渡り、1655羽を確認した。ハイタカの春期の渡り経路であることが明らかになっている福岡県立石山とは渡りの時期が異なり、本調査地は立石山とは異なる渡り経路上にあることが考えられた。ノスリ、ツミ、オオタカ、サシバはおもに東方向へと渡り、それぞれ1218羽、210羽、71羽、88羽が確認され、大分県佐賀関町関崎は春期におけるハイタカ、ノスリ、ツミの主要な渡り経路になっていると考えられた。サシバについては、周囲の調査地の記録羽数と比較すると本調査地はサシバの春期の主要経路から外れていると考えられた。

## 引用文献

- 井上勝巳. 1993. 春期に西へ渡るハイタカ属 3種. *Strix* 12: 85-92.
- 井上勝巳. 1998a. 長崎県五島列島 福江島のハチクマの渡り. *Strix* 16: 109-120.
- 井上勝巳. 1998b. 春期に長崎県対馬を南下するハチクマとサシバ. *Strix* 16: 171-174.
- 井上賢三郎. 1997. 九州北西部における春のサシバの渡り. *Strix* 15: 130-132.
- 久野公啓. 2000. 龍飛岬のタカの渡り 春 1995-2000年. タカの渡り2000puls信州のタカの渡り1999年報. pp 90-106. 信州ワシタカ類渡り調査研究グループ, 長野.
- 伊関文隆. 2004. 春期に九州北西部を西へ渡るハイタカと東へ渡るサシバ・ハチクマ. *Strix* 22: 81-88.
- 黒岩哲夫・西村俊彦・橋本裕子・吉本海男. 1998. 高知市における春期のサシバの渡り. *Strix* 16: 121-126.
- 森岡照明・叶内拓哉・川田隆・山形則男. 1995. 図鑑 日本のワシタカ類. 文一総合出版, 東京.
- 日本野鳥の会愛媛県支部・高知県支部・大分県支部・宮崎県支部. 1989. 四国から九州に渡るサシバの渡りルート. *Strix* 8: 125-131.
- 日本野鳥の会徳島県支部. 2003. 記録集 徳島のタカの渡り 調査と観察の歩み 1976年秋～2003年春. 日本野鳥の会徳島県支部, 徳島.
- 信州ワシタカ類渡り調査研究グループ. 2000. タカの渡り2000puls信州のタカの渡り1999年報. 信州ワシタカ類渡り調査研究グループ, 長野.
- 吉井正・叶内拓哉. 1979. 渡り鳥. 東海大学出版会, 東京.
- 武田恵世. 1989. 日本列島における鷹の渡り. *Strix* 8: 35-123.
- 富高裕二・山本兆司. 2002. 九州北東部における春のハチクマの渡り. *Strix* 20: 107-115.

## Spring migration of raptors in Sagaseki, Oita

Masuo Watarai<sup>1,2</sup> & Makio Yano<sup>2</sup>

1. 7-14, Takajyoushinmachi, Oita, Oita 870-0156, Japan

2. Study group of rare wildlife, 640-3 Oozaakiba, Mie-cho, Oono-gun, Oita 879-7141, Japan

The major migration routes of raptors in Japan have been studied since 1986. In Kyushu, southern Japan, the autumn migration has been well studied, but few studies of the spring migration have been carried out. In eastern Kyushu there has been no long-term migration study other than that of Honey Buzzards *Pernis apivorus* conducted at Mt. Hachimen, Oita Prefecture. Therefore we studied raptor migration in Sekizaki, Oita Prefecture from March 13 to April 11, 2004. Eurasian Sparrowhawks *Accipiter nisus* primarily migrated to the west. We counted 1,655 individuals in total. There was a difference in the migration period of the species between our study site and at Tateishiyama, Fukuoka Prefecture and is, therefore, assumed to be on a different fly-way. We confirmed 1,218 Common Buzzards, 210 Japanese Lesser Sparrowhawks, 71 Goshawks and 88 Gray-faced Buzzards principally migrating to the east. The study site was assumed to be on one of the major spring migration routes of Sparrowhawks, Common Buzzards and Japanese Lesser Sparrowhawks, but not that of Gray-faced Buzzards, however, when numbers of this species counted in other neighboring study sites were compared.

*Key words: Spring migration, Raptors, Sekizaki, Oita*

付表 1. 大分県佐賀関町関崎における2004年春期の猛禽類の渡りの状況. 括弧内の数値は西向きに渡った個体数, 0は出現あり, -は確認されなかったことを示す.

No.	日付	調査時刻	天候	ミサゴ	ハチクマ	オオタカ	ツミ	ハイタカ	ノスリ
1	Mar, 14	9:00~13:20	晴	-	-	3	-	(156)	155
2	Mar, 15	7:50~15:00	快晴	0	-	1 (1)	(1)	(232)	55
3	Mar, 16	7:40~14:20	快晴	1	-	5	7	(149)	132
4	Mar, 17	7:50~13:00	晴/曇	-	-	3 (1)	4	(45)	36
5	Mar, 18	8:00~14:30	曇/晴	0	-	0	-	(9)	21
6	Mar, 19	7:50~15:20	晴	0	-	3 (1)	2	(43)	126
7	Mar, 20	9:00~15:10	曇	0	-	-	2	(10)	46
8	Mar, 21	実施せず	雨	-	-	-	-	-	-
9	Mar, 22	12:10~14:20	雨/曇	0	-	-	-	-	0
10	Mar, 23	7:30~16:00	曇/晴	1	-	9	4	(44)	136
11	Mar, 24	10:00~15:10	曇/晴	0	-	9	7	(89)	86
12	Mar, 25	7:30~10:00	曇	-	-	-	-	(0)	1
13	Mar, 26	8:10~15:20	快晴	0	-	7	-	(65)	102
14	Mar, 27	7:20~15:10	晴	2	-	4	18	(55)	49
15	Mar, 28	7:20~15:20	晴	0	-	4	26	(186)	40
16	Mar, 29	7:20~15:20	晴	0	-	4	2	(94)	10
17	Mar, 30	実施せず	晴	-	-	-	-	-	-
18	Mar, 31	7:30~14:30	晴	0	-	1	1	(8)	10
19	Apr, 1	7:30~14:30	晴	2	-	5	46	4 (91)	64
20	Apr, 2	7:40~13:40	晴	0	-	0	1	1 (25)	6
21	Apr, 3	7:30~14:00	晴	0	-	6	27	(48)	24
22	Apr, 4	9:00~15:40	晴	0	-	1	-	(17)	23
23	Apr, 5	7:30~14:00	晴	-	-	-	5	1 (31)	18
24	Apr, 6	7:20~13:40	晴	0	-	5 (1)	15	(55)	16
25	Apr, 7	7:20~13:00	晴	0	-	0	0	1 (24)	5
26	Apr, 8	7:20~14:00	晴	0	-	-	1 (1)	1 (25)	11
27	Apr, 9	7:20~13:00	晴	0	-	-	20	(50)	19
28	Apr, 10	7:20~13:30	晴	-	1	1	21	(71)	19
29	Apr, 11	7:00~14:00	晴	0	-	0	1	(33)	8
合計 Total				6	1	71 (4)	210 (2)	9 (1655)	1218

付表 1の続き

No.	日付	調査時刻	天候	サンバ	チュウヒ	ハイロチュウヒ	ハヤブサ	チョウゲンボウ	不明な種
1	Mar, 14	9:00~13:20	晴	-	-	-	-	-	-
2	Mar, 15	7:50~15:00	快晴	-	-	-	-	-	-
3	Mar, 16	7:40~14:20	快晴	-	-	-	0	-	-
4	Mar, 17	7:50~13:00	晴/曇	-	-	-	1	(1)	-
5	Mar, 18	8:00~14:30	曇/晴	-	-	-	0	-	-
6	Mar, 19	7:50~15:20	晴	-	-	-	0	-	(2)
7	Mar, 20	9:00~15:10	曇	-	-	-	0	-	-
8	Mar, 21	実施せず	雨	-	-	-	-	-	-
9	Mar, 22	12:10~14:20	雨/曇	-	-	-	-	-	-
10	Mar, 23	7:30~16:00	曇/晴	-	-	-	0	-	(2)
11	Mar, 24	10:00~15:10	曇/晴	2 (1)	-	-	-	-	2
12	Mar, 25	7:30~10:00	曇	-	-	-	-	-	-
13	Mar, 26	8:10~15:20	快晴	11 (1)	-	-	0	-	3(2)
14	Mar, 27	7:20~15:10	晴	2	1	-	0	-	-
15	Mar, 28	7:20~15:20	晴	1	-	-	0	-	-
16	Mar, 29	7:20~15:20	晴	-	-	-	0	-	-
17	Mar, 30	実施せず	晴	-	-	-	-	-	-
18	Mar, 31	7:30~14:30	晴	1	-	-	0	-	-
19	Apr, 1	7:30~14:30	晴	3	-	-	0	-	-
20	Apr, 2	7:40~13:40	晴	3	-	-	0	-	-
21	Apr, 3	7:30~14:00	晴	4	-	-	0	-	2
22	Apr, 4	9:00~15:40	晴	1	-	-	-	-	-
23	Apr, 5	7:30~14:00	晴	3 (2)	-	-	0	-	-
24	Apr, 6	7:20~13:40	晴	17	1	-	0	-	-
25	Apr, 7	7:20~13:00	晴	9	-	-	0	-	-
26	Apr, 8	7:20~14:00	晴	4	-	-	0	-	(1)
27	Apr, 9	7:20~13:00	晴	9 (1)	-	-	0	-	1
28	Apr, 10	7:20~13:30	晴	8 (3)	-	-	-	-	-
29	Apr, 11	7:00~14:00	晴	10	-	1	0	-	-
合計 Total				88	2	1	1	(1)	8(7)